

OPORA RUSSIA FUKUOKA

2011年4月

*ロシア連邦政府中小企業発展委員会 副会長
OPORA RUSSIA 全ロシア中小企業協会
会長セルゲイ ボリソフ氏へ親書

*オーポラロシア本部 訪問・報告

*バウマン・モスクワ工科大学訪問 報告

*オーポラロシア・バシコルトスタン共和国 担当理事
スヴェトラナ M.ハルフィナ氏と実務的な会談



北九州市産業経済局貿易振興課
株式会社東洋硬化
OPORA RUSSIA FUKUOKA

上野 浩氏
小野賢太郎氏
ジーナイダ ヤヌルカエヴァ氏

北九州市 北橋健治市長より「親書」を OPORA RUSSIA 全ロシア中小企業協会 会長
・ロシア連邦政府中小企業発展委員会 副会長 セルゲイ ボリソフ氏へ上野 浩氏が
代読の上、直接手渡する。



OPORA RUSSIA FUKUOKA

2011年04月26日

オーポラロシア本部 訪問・報告

●訪問者 (株)東洋硬化 小野賢太郎氏
OPORA RUSSIA FUKUOKA ジーナイダ ヤヌルカエヴァ氏

●対応者 オーポラロシア本部
国際部門担当副部長 コノヴァロヴァ オリガ氏



●経過

- ・4月26日朝、オーポラロシア本部事務所に、ヤヌルカエヴァ氏の案内の下、国際部門のオルガ副部長を訪ねた。
- ・(株)東洋硬化が行なっている建機等の油圧機器再生業務PR用文書（ロシア語）及び文書内容（ロシア語）画像（英語解説文付）を書き込んだCD-Rを手渡す。
- ・ロシア国内にて、東洋硬化が日本と中国で現在展開している油圧ピストンロッド再生業務が普遍化するならば、高価な油圧部品の購入にかかる経費の節減、オイル漏れによる機械初期設定パワーのロス防止と作業高能率化、作動オイル漏れの低減とそれが滴ることによる地面等汚染の軽減がなされることは間違いないと説明した。
- ・東洋硬化業務内容をロシア国内、特に、当方が想定地域として考えている沿海地方やハバロフスキー地方に対してPR活動したい旨伝えた。
- ・さらに、想定顧客業界は、油圧機器製造業界ではなく、油圧機器使用業界や油圧機器整備業界エンドユーザー等であることを伝えた。

- ・想定地域と想定顧客業界へのPRを行なうタイミングに先立ち、オーボラロシア本部から傘下の想定企業に対し、事前にオファーして貰いたい旨、要望した。
- ・オリガ氏から、(株)東洋硬化の要望を検討し具体的に動く旨、前向きな話を貰う。
 - ・ボリソフ会長及びオリガ氏宛に、要望内容書を英文Eメールにて送信する様、指示された。

2011年04月27日

バウマン・モスクワ工科大学訪問 報告



●訪問者 北九州市産業経済局貿易振興課
 株式会社東洋硬化
 OPORTA RUSSIA FUKUOKA

上野 浩氏
小野賢太郎氏
ジーナイダ ヤヌルカエヴァ氏

●対応者 バウマン・モスクワ工科大学

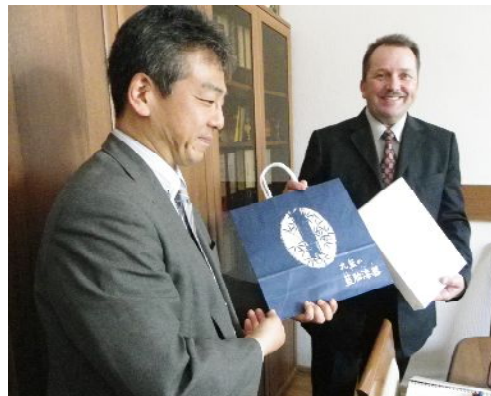
イワン アカロフ教授
ピョートル ツィガンコフ教授
タチアナ タラソワ教授 他

●経過

・ OPORTA RUSSIA ボリソフ会長の紹介で、
 1830年にエカテリーナ女帝によって設立された。
 バウマン・モスクワ工科大学の表面処理関係者への
 表敬訪問と学内視察を行う。
 尚、当初予定にあった学内工場視察については
 工事中であるとのことで残念ながら中止となった。



- ・10時、アカロフ教授・ツィガンコフ教授・タラソフ教授、他一名と、当方の上野氏・小野氏
- ・ヤヌルカエヴァ氏が面談した。



- ・北九州市産業経済局貿易振興課上野氏が、東日本大震災ロシア救援隊の迅速な派遣への謝礼と訪問への感謝。
- ・バウマン・モスクワ工科大学のアカロフ教授から(株)東洋硬化のロシア語パンフを切り口に質問と課題提起、バウマン・モスクワ工科大学での表面処理研究などについて説明を受ける。(ロシア語)
- ・プラズマ工学研究のツィガンコフ教授より B・モスクワ工科大学での真空成膜について概論と各論を以下の様な会談となる。(英語)
- ・(株)東洋硬化が行なっているアーク方式イオンプレーティングの原理確立が何と 1966 年にバウマン・モスクワ工科大学でなされ、その後、他国で商業化された状況などについて意見交換を行う。
(日本語・ロシア語)
- ・アーク方式以外のイオンプレーティングのうち、高周波励起式イオンプレーティング研究や界面活性化度合による被膜の密着性と剥落傾向についての意見提示。(英語)
- ・イオンプレーティング以外のプラズマ利用真空成膜系への取組みとしてイオンインプラント・ダイナミックミキシング・アンバランスドマグネトロンスパッタリング等について、バウマン・モスクワ工科大学での研究概要を聞く。(英語)
- ・(株)東洋硬化とバウマン・モスクワ工科大学との共同研究提案をされるが、日本の中小企業にとって、手を出すべきレベルでなくまた、手が出るはずもない学術的基礎部門での共同研究提案である為、提案内容は保留にした。
この件、福岡県工業技術センター機械電子研究所や、日本国内のイオンプレーティング等、成膜装置メーカーに情報を提供



●考察

- ・面談の後、学内にある博物館を視察したが、工学各分野の基礎研究と応用項目水準の高さに驚かされた。世界の航空工学界で戦闘機や爆撃機の開発で著名な研究者アンドレイ・ニコラーエヴィチ・トゥーポレフ（ツポレフ）や、ロシアの主要航空機メーカーの創始者パーヴェル・スホーイ・ソビエト初のロケット開発及び、大陸間弾道ミサイルを世界に先駆けて開発した宇宙開発の中心人物セルゲイ・コロリョフ・その他、宇宙飛行士多数がOBである事、学校設立の間もない頃、ロシアの科学者で元素の周期率を制作し世界に発表したドミトリー・イヴァノヴィチ・メンデレーエフが教鞭を取っていた事等からして、非常に高い学究水準を保持した大学であることを改めて理解する事となった。㈱東洋硬化にとっても時代背景とタイミングが、さわやかな風と共に舞い込んだ。



2011年04月28日

オーポラロシア・バシコルトスタン共和国 担当理事
スヴェトラーナ M.ハルフィナ氏と実務的な会談

- オーポラロシア本部事務所表敬訪問時の午前で
第1回目の会談。午後より第2回目の会談。



- (株)東洋硬化 小野賢太郎氏
オーポラロシア バシコルトスタン共和国 担当理事 スヴェトラーナ M.ハルフィナ氏
通訳 タチアナ リハチョヴァ氏 (モスクワ大学東洋学部教師)

●経過

- ・オーポラロシア本部事務所にてハルフィナ氏と面談を行った。
- ・(株)東洋硬化にて行なっている建機等の油圧機器再生業務PR用文書(ロシア語)及び文書内容(ロシア語)・画像(英語解説文付)を書き込んだCD-Rを渡す。
- ・ロシア国内にて、(株)東洋硬化が日本と中国で現在展開している油圧ピストンロッド再生業務が普遍化するならば、高価な油圧部品の購入にかかる経費の節減、オイル漏れによる機械初期設定パワーのロス防止と作業高能率化、作動オイル漏れの低減とそれが滴ることによる地面等汚染の軽減がなされることは間違いないと説明した。
- ・ロシア国内でこの事業を展開するにあたり、(株)東洋硬化と提携して要修理油圧ピストンロッドを取りまとめて日本に送付し、再生した品を(株)東洋硬化から受け取ってユーザー返却と代金回収代行する協力企業が必要である旨、説明をする。
- ・ハルフィナ氏から業務協定についての契約書は作成しているか、との問合せを受けるが、時期尚早に過ぎる申し入れであり、諸条件整わぬうちには契約出来ぬ旨説明し了承を得た。

- ・ハルフィナ氏から、(株)東洋硬化で行なっている油圧部品再生事業をバシコルトスタン共和国にて現地資本との合弁事業として行なわないか、との提案があったが、拙速に過ぎる合弁事業立ち上げより、まず、久留米市の(株)東洋硬化を視察し、再生業務の何たるかを理解した後、(株)東洋硬化とバシコルトスタン共和国企業との営業活動・業務提携を始めるべきであると提案し、ハルフィナ氏の同意を得た。
- ・ハルフィナ氏によれば、サハリン州の州都ユジノサハリンスクにバシコルトスタン共和国と友好関係にある整備事業者が存在するとの事。その整備事業者にロシア国内の東半分、バシコルトスタン共和国の事業者が西半分を担当させてはどうか、との申し入れを受ける。詳細など全く詰められない中での第1回目・初会的会談として了承した。
- ・①ロシア各地での潜在的市場確認。
②エンドユーザーが再生を必要であると考えているか否か。
③(株)東洋硬化同業である硬質クロム鍍金業者・機械加工業者の存在と、存在するならばその技能程度確認。
④(株)東洋硬化と提携し要修理品受入代理が出来る油圧機器整備業者の存在を確認する必要以上の調査が必要である旨説明し理解を得る。
- ・その上で、まず、バシコルトスタン共和国とサハリン州にて、上記4項目を調査したい旨要望し、理解を得る。
- ・バシコルトスタン共和国及びサハリン州から久留米までの物流について質問があったが、コンテナ内に確保した上での搬入と不定期貨物船での門司港利用について説明した。
- ・油圧部品を分解し要補修部品のみをコンテナ積み搬送する事により運賃軽減に繋がる為、(株)東洋硬化と提携する事になる整備事業者で油圧機器分解と組立を担当する事になると当方より提案した。
- ・以上内容についての詳細打合せをEメールにて英文で取り交わす事とした。